

いつだって好奇心 手を伸ばせばそこに本

# 子どもの読書活動

学校・園の取り組みを紹介します⑩

問 社会教育課 ☎(582)1142 📠(581)2733

## 守山南中学校

### 図書委員会の取り組み

「あらすじコンテスト」は、自分が読んで面白かった本や、お薦めの本のあらすじをイラスト付きで紹介する取り組みです。彩色されたイラストが生徒たちの関心を集めています。また、優秀な作品は図書委員会からの表彰もあり、毎回素晴らしい作品が集まっています。「欲しい本アンケート」は、希望の多かった本を生徒会費で購入する取り組みです。購入された本を「朝の読書」の時間に読んでいる生徒もいて、読書意欲の喚起に一役買っています。



現在、校舎の改修工事が行われており、図書室もリニューアルされる予定です。新しくなる図書室をみんなで楽しみにしています。

現在、校舎の改修工事が行われており、図書室もリニューアルされる予定です。新しくなる図書室をみんなで楽しみにしています。

## 明富中学校

### 全校をあげた「朝読書」の取り組み

明富中学校では、毎日の朝学活前に10分間、「アカデミックタイム」という時間を設けています。金曜日は新聞のコラムを読んで感想文を書き、月～木曜日は「朝読書」として、朝の穏やかな時間の中で読書活動に取り組んでいます。

「朝読書」の時間では、生徒が自分で用意した読みたい本を誰にも邪魔されずに読むことができます。小説を読む生徒、本で脳トレを始める生徒、図鑑を広げて自分の世界へと潜っていく生徒などさまざまです。



本を読む機会を増やすと同時に、落ち着いて学校生活を始めることができる大事な時間となっています。

## 佐川美術館 アートコラム⑩

### いま流行のボタニカルアート?!

公益財団法人佐川美術館

学芸統括…井上英明



田中一村(1918-1977)は、栃木に生まれ、幼少期を東京で過ごし30歳の時に千葉に移住した後、50歳で奄美大島に渡った異色の日本画家です。生前は無名の画家として売れることがなかった一村ですが、亡くなった後で爆発的に人気が出たことで知られています。なぜ亡くなった後に人気が出たかという点、その波乱万丈の人生とともに、奄美に渡った時に描いた作品によって、今までの日本画では見られなかった南国の動植物や豊かな色彩が評価されたからです。人気が出た当時は「日本のゴーギャン」とも呼ばれていました。

一村は、青少年時代に南画という中国絵画を描いていましたが、自分の進むべき道を常に考え、23歳の時に自然の情景を写実的に描こうと画風を変更します。これ以降、写生を元に日本画の伝統的な手法で四季の草花などを描き、晩年に渡った奄美でも南国特有のトロピカルな動植物を色鮮やかに描きます。それらの作品は正に、今ちまたでよく耳にする「ボタニカル」(植物の)という意味)なアート。日本人にとって、自然の景色や植物は心癒されるものです。一村の作品が、多くの人を魅了し続ける理由もそこにあり、特に南国の動植物を描いた作品は、一度見ると強い印象を残すとともに、心が惹き付けられます。

佐川美術館では、開館20周年特別企画展として「生誕100年 田中一村展」を開催しています。この夏は「ボタニカル」な日本画をぜひお楽しみください。



田中一村《初夏の海に赤翡翠》1962年ごろ  
田中一村記念美術館蔵 ©2018 Hiroshi Niyama

※7月27日(金)は守山市民の日(守山市民は入館無料)です。詳しくは14頁をご覧ください。